

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／11日（月）	野村（無党派）	一括質問・答弁方式	<p>1 大野市和泉診療所の歯科診療存続について</p> <p>大野市和泉診療所設置条例の一部を改正する条例案が上程されている。改正内容は歯科診療を廃止するためとしているが、中部縦貫自動車道が開通しても、自動車を運転できない子どもや高齢者は市街地の歯科医院への通院は困難である。</p> <p>市営バスの始発7時20分に乗って行っても、歯科診療は9時から。帰りの交通機関はJR越前大野駅発10時7分、それを逃すと13時以降しかない。</p> <p>こういう状態で廃止されては歯科受診が困難であり、「市街地の歯科医院まで通院するための路線バスなどの移動手段が確立されていないのに廃止はあり得ない」との声が上がっている。</p> <p>○ 地域住民等から大野市和泉診療所の歯科診療存続を求められているが、市の見解を伺う。</p>
			<p>2 人口減少・高齢化が進行する中における市民サービスの確保について</p> <p>人口減少が進行すると、交通機関の確保に限らず、市民サービスの低下が懸念される。</p> <p>今日、郊外集落では移動の自由が確保されているとは言えず、生活に支障を来している状況である。具体的には、高齢者世帯の買い物や通院に支障を来していると市民から訴える声が聞かれる。</p> <p>自動車運転免許証を返納して、自らの移動手段を確保できない世帯は深刻である。公共交通機関が脆弱（ぜいじゃく）であるとともに、行政も参加した地域ぐるみの移動手段が確保されていないからである。</p> <p>2045年には人口が2万人を割り込むと想定されており、この状況は今後ますます深刻になる。</p> <p>市民の移動手段を確保・保障し、買い物・医療を享受できる施策を市民に提供することを約束してはどうか。</p> <p>○ 行政が将来にわたって市民生活・サービスを低下させないと約束することが、市民の安心と行政への信頼を獲得することになると考える。市長としての決意と姿勢を明らかにすることが必要と考えるが、見解を伺う。</p>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第1日) ／ 11日 (月)	笹山 (大野市民の会)	一括質問・答弁方式	<p>1 星空保護区認定を活用した観光の活性化について</p> <hr/> <p>本市の南六呂師エリアが、星空の世界遺産といわれる星空保護区に認定された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交通手段や宿泊施設などの課題がある中、星空保護区認定を生かし、市街地の観光施設などとの連携をどのように発展させていきたいと考えているのか。 ○ 南六呂師までの案内看板についてどのように考えているのか。 ○ 六呂師高原活性化構想の進捗(しんちよく)はどのような状態にあるのか。

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／11日（月）	伊東（市政会）	一問一答方式	<p>1 「SDGs未来都市」としての取り組みについて</p> <p>本市は令和5年5月22日に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、「自治体SDGsモデル事業」について国からの支援を受け、持続可能なまちづくりを進めていくことになった。</p> <p>経済・環境・社会の三側面における新しい価値創出を通し、選定を受けた提案を実現していくために、SDGs未来都市としての取り組みについて3点伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SDGs未来都市提案書で目指す2030年のあるべき姿とは何か。 ○ 自治体SDGsモデル事業で挙げた経済・環境・社会の三側面をつなぐ総合的取り組みとは何か。また、「観光を軸で稼ぐ新組織」として今秋に設立される（一財）越前おおの観光ビューローに期待するところとは何か。 ○ 星空保護区認定取得で大きく価値が高まる「星空」だが、経済の観点では「星空観光の推進」を、環境の観点では「光害対策」をそれぞれうたっている。この相反する二つをどちらも両立させて持続可能な地域とするために、六呂師地域の将来像をどう描いているのか。 <p>2 熱中症対策について</p> <p>記録的な猛暑が続く中、令和5年7月の全国における熱中症による救急搬送人員は36,549人で、これは7月の調査を開始した平成20年以降、最も多かった平成30年に次いで2番目に多い搬送人員となった。</p> <p>地球温暖化の影響が懸念される中、「顕著な高温」の頻度・強度がますます高まっていくことが予測されることから、次の6点について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本市における7月・8月の熱中症による救急搬送の状況は。 ○ 今後は学校やスポーツ施設、災害時の避難所等のエアコンの普及、また利用促進を図るべきと考えるが、本市の所見は。 ○ 本市の高齢者等に対する熱中症対策は。 ○ 本市の学校現場における熱中症対策は。 ○ 誰でも暑さを避けられる避難場所「クーリングシェルター」として、公共施設を開放してはどうか。また民間施設の協力の下、クーリングシェルターの確保・推進をしてはどうか。 ○ 熱中症の予防啓発に対する本市の考えは。

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／11日（月）	梅林（もえぎ会）	一括質問・答弁方式	<p>1 恵まれた水環境や地域固有の水文化が継承され、人と水との豊かなかわりが実現されたまち</p> <p>○ 今年の夏は猛暑が続き、豪雨や台風の被災が全国各地で起こっている。 本市においては、7月・8月は降雨量が非常に少なかった。気象庁アメダスによると、7月は降雨量0^{ミリメートル}の日が18日。8月はなんと24日。 8月で雨の降った日は、13日6.0^{ミリメートル}/日、15日の11.5^{ミリメートル}/日、16日8.0^{ミリメートル}/日、17日13.5^{ミリメートル}/日、20日16.0^{ミリメートル}/日、21日25.0^{ミリメートル}/日、26日39.5^{ミリメートル}/日の7日。いずれも急に降り出して短時間でやむにわか雨である。1時間当たり20^{ミリメートル}～30^{ミリメートル}未満の傘を差しても濡れる程の強い雨が降っている。 このような降雨は一気に河川に流れる。地下水のことを考えると、弱い雨が長時間降ることじわじわと地下に浸透し、かん養源になる。 このように7月・8月の降雨量は非常に少なかったが、地下水位は低下していない。 降雨量が少なくても、すぐに地下水位の低下をもたらすものではないことを物語っていると思われるが、この状況をどのように分析しているか。</p> <p>○ 本市は自然資本である地下水・湧水に恵まれていたゆえ、その資源の持続可能性への押領が行き届かず、さまざまな問題を経験してきた。 この問題の解決に当たって、次世代を担う若者による選択を重視する必要があるのではないか。 上の世代が決めたことで将来世代にツケを回すこと、既定の計画や価値観を押し付けることは、将来世代の多様で柔軟な選択を阻害することになる。 若者が中心となって自由で多様な価値観を重んじる時代へと変わっていきこうとしている中で、若者の意思決定の権利を行使する仕組みを作り、世代間均衡を図っていく必要があるのではないか。 地下水に対するアンケート調査の第2弾として、若者を対象としたアンケートを実施してはいかがか。 若者から本市の恵まれた地下水の保全や利用に関する意見を聞く機会をつくることは、将来的な地下水管理にプラス効果をもたらすことにもなるのではないか。</p> <p>○ 平成15年に「大野市地下水総合調査」、平成22年に「大野市湧水湧出観測」を行っている。また平成25年・26年の2カ年、地下水の可視化を目的に国土交通省の国土技術政策総合研究所が「水循環解析モデルによる大野盆地の地下水の流れ」の調査を行っている。 その後、国交省との意見交換の際、調査メッシュ（間隔）が荒かったのもう少し細かい調査と、地下水の主要な水みち割れ目の透水性と深度についての2点の調査の要望をしたが実施には至っていない。 本市の地下水は飲み水・生活用水としてだけでなく、農業、産業、観光、内水面とも密接にかかわり、欠かすことのできない貴重な資源である。 また地下水を象徴するイトヨの生息、さらには長い歴史の中で育んできた水との共生文化。</p>

<p>一般質問 (第1日) ／ 11日 (月)</p>	<p>梅林(もえぎ会)</p>	<p>一括質問・答弁方式</p>	<p>この資源の持続可能性を市の発展に生かすため、また適正な科学的根拠に基づいた地下水マネジメントを展開していくため、新たに地下水総合調査をする時期に来ていると思われるが、市の見解は。</p> <p>○ 節水シャワーヘッドの補助や節水チラシの全戸配布などの取り組みは、水に対する市民意識の醸成に寄与していると思う。</p> <p>今後は、ホームポンプに揚水量を計測する測定器を設置して使った水を見える化し、さらなる節水意識の向上につなげてはいかかが。</p> <p>まずは自分の使っている水がどれだけかを数値で知ること、水の見える化により、地下水が無限ではないことを意識することは、市民の共有財産である地下水の保全意識にもつながる。</p> <p>地下水を保全し、継続的に利用していくためには財源が必要である。しかし、有料化や目的環境税としての徴収には課題も多く、全国の自治体でも苦慮している。</p> <p>現状、地下水はタダであるが、地下水の保全のためにはさまざまな費用がかかる。その費用の一部でも受益者が負担するということが合理的である。</p> <p>受益者負担を市民に理解していただくためにも、地下水使用の「見える化」が重要である。</p> <p>いのちを守ることも、いのちの水を守ることも、わが問題、自分事として意識していただく良い機会にもつながるのではないかと。</p>
---	-----------------	------------------	--

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第1日) ／ 11日 (月)	猪 嶋 (大野市民の会)	一括質問・答弁方式	<p>1 携帯電話不感地帯の解消について</p> <p>迅速な災害対応の観点から、現在、携帯電話の不感地帯となっている国道158号の仏原・下山間、長野・大谷間、下半原・東市布間、県道上大納下山線の谷戸口・下大納間、国道157号の下若生子・中島間、また県道上小池勝原線の下打波から上流において、不感地帯の解消が必要であると思うが、この点について市はどのように考えているか。</p> <p>また、今秋に開通が予定されている中部縦貫自動車道の勝原IC・九頭竜IC間において、携帯電話の電波対策が取られているのか。</p> <p>2 農業者への物価対応策について</p> <p>電気代や燃料などの値上がりが続く中、今定例会では、福祉・介護施設、酪農家への支援策が補正予算案として提出されているが、農業者への支援策は提案されていない。</p> <p>特に今は稲刈りシーズンの最中であり、機械燃料や電気を多く使う需要期である。</p> <p>米価が上がらない中、農業者の負担は大きくなるばかりで、離農者が増える原因にもつながりかねないと思うが、市として農業者への燃料・光熱費の支援は検討していないのか。</p>

一般質問事項一覧

9月12日（火）

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第2日) ／ 12日 (火)	山崎 (清風会)	一括質問・答弁方式	<p>1 中部縦貫自動車道について</p>
			<p>○ 現在の整備の進捗(しんちよく)状況は。</p>
			<p>2 公共施設再編計画について</p>
			<p>○ 再編は計画通りに進んでいるのか。</p> <p>○ 市長の再編計画へのビジョンはどのようなものか。 これから想定される公共施設の建設に着手する場合、早急の再編が求められるがその考えは。</p> <p>○ 市役所、結とびあの年間維持費はどれくらいか。</p>
<p>3 有終南小学校校庭の芝生化について</p>			
<p>○ 過去に市に対して署名付きの要望があったはずだが、現在の市の考えは。</p>			

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／12日（火）	岸本（大野市民の会）	一問一答方式	<p>1 奥越ふれあい公園施設について</p> <p>奥越ふれあい公園は、平成12年12月に県の4地域に順次整備された総合公園の一つである。奥越地域の広域的なスポーツや多様なレクリエーションニーズに対応する目的で整備され、特に公園内に設置されている陸上競技場は、平成5年5月（1993年）に建設され供用開始した日本陸上競技連盟による第2種公認の競技場に位置付けられた施設である。</p> <p>本市は指定管理者として、公園が安全で快適に利用できるよう適切な維持管理に努めているが、19.6㍓と広大であり、また施設の老朽化も今後進んでいくことから、県への要望事項も踏まえて伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公園内施設やグラウンド、テニスコート、子供の森、ひろびろ広場等の利用人数の推移と団体利用数の推移は。 ○ 5年に一度の日本陸上競技連盟から陸上競技場として適正であるかを審査する第2種公認検定審査を本年5月に受けていると思うが、認定審査で危惧する点、今後認定審査に対し問題となる点はあるのか。 ○ 令和8年度春には中部縦貫自動車道が県内全線開通予定で、他市・他県とのスポーツ交流や市内各種イベントを通して交流人口を拡大することが、本市経済を活気づける一つと考える。 そのためには、ある程度の施設整備も必要と思うがいかがか。 <p>2 道路維持管理について</p> <p>日本のインフラ施設は、戦後の高度経済成長期において集中的に整備されてきた経緯があり、今後さまざまなインフラが一举に老朽化することが懸念されている。</p> <p>国土交通省によると、2018年から2033年までの社会インフラの老朽化推移の予測では、道路橋は約25㍓から約63㍓へ、河川管理施設は約32㍓から約62㍓へと、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなる見込みとのことである。</p> <p>本市においても、市道路線1,085路線、総延長約504キロメートルの多くが老朽化により、維持・更新コストの負担増大や重大事故の発生が懸念される。</p> <p>そこで、冬季間の市民の一番の心配事でもある除雪体制も含めて伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 建設整備課の道路補修に係る経費として、令和3年度決算額1億8,100万円に対し、令和4年度決算額は1億7,500万円、令和5年度予算額は1億8,900万円と横ばいで推移しているが、資機材や労務単価が高騰する中、市民の暮らしを守る観点から、予算に対する見解は。 ○ 毎年、市民から道路維持・改良工事、流雪構修繕等の要望が多くなっていると思うが、要望に対する対応は。 ○ 今後数年のうちに除雪オペレーターの高齢化がさらに進み、除雪業者が減少すると仮定した場合、除雪体制の市の考え方は。

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／12日（火）	廣瀬（市政会）	一括質問・答弁方式	<p>1 令和6年度の中学校再編に向けて</p> <p>来年4月の中学校再編に向けて、6月議会以降の取り組みについて質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 補正予算に小中学校再編計画推進事業331万9,000円が計上されている。この予算についての詳細は。 ○ 和泉地区の生徒が陽明中学校へ通うスクールバスについては、新たな市営バス路線を運行し、中学校のスクールバスとしての機能に併せ、高校生の通学にも供するよう検討を進めていくということだったが、詳細は。 ○ スクールバスの委託先は9月議会までには決まるとのことだったが、現在の状況は。 ○ 中学校の再編に向けて、学校間の交流活動を部活動だけでなく、いろいろな活動にどんどん広げていくということだったが、2学期以降の具体的な交流の計画は。 ○ 有終西小学校を卒業する児童の進学先については、通学区域審議会で審議していくということだったが、現在の状況は。 ○ いよいよ下庄小学校と開成・陽明中学校の校舎改修が始まった。学校は2学期が始まり、授業が行われている。子どもたちの学習になるべく影響のないよう配慮してほしいが、具体的にどのような工夫をしているのか。 ○ 再編後の敷地、校舎の利活用については、現在どこまで話が進んでいるのか。
			<p>2 結ステーションと周辺施設の管理について</p> <p>結ステーションと周辺施設の管理について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 結ステーションと周辺施設は、新組織「越前おおの観光ビューロー」、市、屋内型子どもの遊び場施設の指定管理者で管理するということがだったが、どのようにすみ分けて管理するのか。 ○ 令和6年度に結ステーション駐車場での有料化実証実験を検討していくとのことだったが、どのような実験をするのか。

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第2日) / 12日 (火)	帰山 (大野市民の会)	一括質問・答弁方式	<p>1 国道158号並びに中部縦貫自動車道について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国道158号境寺・計石バイパスの進捗(しんちよく)状況は。 ○ 国や県に対する要望活動及び関係市町との連携はどのような状況か。 ○ 災害時に国道158号が通行止めになった場合の中部縦貫自動車道が果たす役割は。 ○ 中部縦貫自動車道永平寺大野道路の4車線化の見込みは。 <p>2 持続可能な稼げる林業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「大野市森林整備計画変更計画書」は関係者に周知されているのか。 ○ 現在策定中の「おおの森づくりプラン」と「大野市森林整備計画変更計画書」との関係は。 ○ 人工林率は県平均より低い状況であるが、今後増やす予定はあるのか。 ○ 利用期を迎えている森林の主伐計画は。 ○ 過日の福井県知事選挙で杉本知事は主伐を中心とした「稼げる林業」を目指すと言っていたが、県との連携は取れているのか。

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／12日（火）	木戸屋（もえぎ会）	一括質問・答弁方式	<p>1 小中学校における熱中症対策について</p> <p>気象庁は、6月から8月にかけての気温は過去126年間で最も高く、暑い夏であったと発表した。</p> <p>本市でも、暑さ指数（WBGT）が31以上となり運動は原則禁止となる「危険」とされる日が多くなった。7月22日から8月31日までの40日間で、暑さ指数が危険となった日は25日ある。10年前の2013年の同じ時期はゼロであった。さらに今年は9月に入っても、暑さ指数が危険となる日が続いている。</p> <p>熱中症の危険は子どもたちの生命をも脅かす。全国的に見ると、中学生が部活動後の帰宅中に熱中症により死亡したり、体育大会の練習時に多数の生徒が熱中症により搬送されたりする事例が発生している。</p> <p>子どもの命や健康を守るのは周りの大人の責任である。</p> <p>そこで、次の点について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校における特別教室の空調設備の設置状況は、どのようになっているのか。今後はどのような方針で整備していくのか。 ○ 夏季期間の部活動の屋外活動での熱中症対策について、教育委員会は各学校にどのような指導を行っているのか。 ○ 暑い時期の屋外での活動が必要な学校行事や合同行事などの見直しについて、教育委員会はどのような働き掛けを行っているのか。 ○ 学校プールでの水泳指導や夏休みの学校プール開放に対し、熱中症対策の観点から、教育委員会は各学校にどのような支援を行っているのか。
			<p>2 活力があり、生き生きと輝くまちづくりについて</p> <p>令和3年度からスタートした第六次大野市総合計画前期基本計画には「住み続けたいまち」、「活力のあるまち」、「生き生きと輝くまち」という文言がうたわれている。</p> <p>市民が、気付いていない大野市の良さを認識したり、魅力を発見したりすることで、大野がさらに好きになり、「住み続けたい」と思ってもらえることができる。</p> <p>多くの市民が、活力のある市、生き生きと輝く市にしたいという気持ちを持っている。実際、市民がそれぞれの力を発揮して、大野を盛り上げようとする自主的な活動が、市民の団体やグループで行われている。</p> <p>市は、その民の力や動きを活用する施策を打ち出したり、システムを構築したりすることが重要である。</p> <p>そこで、次の点について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南六呂師エリアが星空保護区の認定を受けたが、今後、そのことをどのように本市の活力につなげていくのか。 ○ 来年度は市制70周年記念の年となるが、そのことを市民と共有して民の力を高めるために、どのような施策を取っていくのか。 ○ 市民の活動団体やグループのネットワークを築くために、どのような施策を行っているのか。